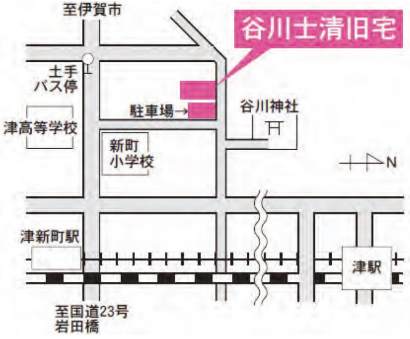
国指定史跡　谷川士清旧宅（たにがわ ことすが）

かつて津城と伊賀上野城を結んだ旧伊賀街道沿いの八町地内に、軒先に石碑の立つ古い町家がある。木造でかわらぶきの一枚屋根、一部が２階（つし２階造）で、道に面して連子格子や「おおだれ」と呼ばれる雨などの降り込みを防ぐ軒下の板などが見られるこの家こそ、家業の町医をしながら学問に打ち込み、多くの業績を残した谷川士清の旧宅である。

谷川士清は、宝永６（1709）年に生まれ、幼少より家業の医者を継ぐため、勉学に励み21歳ごろ京都に遊学。27歳で津に戻り、父の跡を継いで医者となった。そのかたわら、学問に打ち込み、塾（洞津谷川塾）を開いて多くの門人を教えた。

彼自身は、「日本書紀」全巻を分かりやすく解説を加える研究に20数年間を費やし、その集大成として宝暦元(1751) 年に「日本書紀通証」全35巻を完成させた。また、それと併行して、言葉の一つ一つの意味や使い方などについて詳しい研究を行った。それらを五十音順に配列分類して集大成としたものが、わが国最初の本格的な五十音順の国語辞典『和訓栞』全93巻である。ここには、約21,000語が収録され、後に国語辞典を作ろうとする人や、日本語を勉強しようとする人たちにとって大いに参考になった。士清自身はその出版を前に亡くなったが、子孫がその遺志を受け継ぎ、明治20(1887) 年までの100年以上の年月をかけて完成をみた。

旧宅には、これら士清の業績を示す著作のほか、昭和54年に修理を終えた建物の内部も一般公開されており、江戸時代の学び舎の雰囲気を感じ取ることができる。

（「広報津」平成18年２月１日号）

八町通りに面して建つ谷川士清旧宅